

科学者委員会学術誌問題検討分科会（第12回）議事録

日時：平成21年8月23日（木）17:00～20:00
場所：日本学術会議 6-A（1）会議室
出席者：浅島委員長、玉尾幹事、北島委員、田口委員、山本（正）委員、
植田委員、尾城委員、深澤委員、永井委員

事務局：石原参事官、瀬高参事官補佐、兼平専門職、鳥生専門職 他

議題：1) 前回議事要旨（案）の確認について
2) 提言「学術誌問題の解決に向けて―「包括的学術誌コンソーシアムの創設」―」の公表の報告
3) 今後の具体的な方向性の検討について
4) その他

配布資料：

資料1 前回議事要旨（案）

資料2 提言「学術誌問題の解決に向けて―「包括的学術誌コンソーシアムの創設」―」

議事

1. 前回議事要旨（案）の確認について

浅島委員長より、前回議事要旨について確認を求められ、異議なく了承された。

2. 提言の公表にいたる経過と公表後の対応などについて浅島委員長より次のような説明があった。

- (1) 科学者委員会の査読への対応の後、最終版を作成し、7月22日開催の幹事会に玉尾幹事が出席し説明、議論を経て、タイトルの改訂提案を受け、現在のタイトルとして、承認され、8月2日に公表した。
- (2) 提言の概要が金澤会長より、総合科学技術会議で説明された。
- (3) マスコミなどでも取り上げられ、その意義の理解が広がった。
- (4) 8月下旬、NII坂内所長、JST北澤理事長、文科省研究開発局倉持局長などを訪問し今後の具体策について協議予定

3. これを受けて、委員間で、ジャーナル問題に関する世界の動向、コンソーシアム創設に向けての分科会の取組みなどについて意見交換を行った。以下のような意見がだされた。

- ・ 中国、バルト3国などを中心に、多数のオープンアクセス（OA）電子ジャーナルが発刊されている状況にどう対処するか。また Elsevier からも協力の申し出がきているが・・・
- ・ 各学会の対応について、生化学会はコンソーシアムのこと聞きたいとの申し出、物理学会、応用物理学会の自助努力と提言内容とをどうマージするか、日本化学

会は早急に対応を協議する、その他は学会の動きをあまり把握できていない。

- ・リーディングジャーナルをどのように作っていくか。
- ・マーケティング力をどのように強化するか。Elsevier, Blackwell, Nature などが協力を申し出てきているが、提言と矛盾しない方向で交渉する。
- ・アクセスについては、図書館コンソーシアムが図書館長、N I I 坂内所長などと懇談、協力を合意、協定書作成。国公立大学コンソーシアム連携の進め方、事務レベルWG 作って協議。出版社との交渉が中心課題。本提言も頭の片隅には意識。私立大への文科省補助金がワントラブル毎に補助金出すように変って困惑。
- ・米物理学会がOA ジャーナル出版始めた。
- ・著者ナンバリングする動き (Nature, Thomson などがリード) や、open-peer-review (review report も公開される方式) への動きもある。まじめにレビューしているジャーナルは評価される。
- ・コンソーシアムには編集のスペシャリストが必須。
- ・コンソーシアムの運営体制どうもっていくか？学会が資金を出し合い、また収入を上げ、自主運営へ努力。新しいジャーナルカルチャー構築する必要あり。
- ・J-Stage 苦しい状況にある。SPARC-Japan を広げたい。
- ・マーケティングを業者まかせにしてしまうのは良くない。しかし、「世界に出て行く」ということを学会に示す必要あり。マーケティングのノウハウを持っていないので、自分たちだけでは始められない。
- ・クオリティを上げるシステム作りが必須。まずは商業誌と連携し、学会を引き込む。プラットフォームを作り、世界標準のシステム核をコンソーシアムに。
- ・科研費もらったら投稿し、キャリアパスになる、などの意識改革が必要。
- ・IF は避けてとおれない。
- ・みなで案を出し合いよいものを作りましょう。
- ・国際誌 (海外から50-70%の投稿) を目指す。商業誌との交渉は専門の交渉人と研究者がペアであることが必須。

4. 今後の予定

- ・文科省、JST, N I I などと交渉、金澤会長にも報告。
- ・9月末までには方向性を決める。
- ・10月の学術会議総会で協力要請 (浅島委員長)
- ・11月から12月に具体的骨格作り
- ・2011年9月末まで (21期終了まで) につくり上げる。

以上